

2018年3月期 第2四半期決算説明会

2017年10月30日

日本システムウェア株式会社

取締役 執行役員副社長 桑原 公生

Humanware By Systemware

1. 第2四半期決算

連結業績 概要(第2四半期累計)

(単位:百万円)

	2018/3期 2Q累計 実績	期初計画比		前年同期比		期初計画	2017/3期 2Q累計 実績
		増減額	増減率	増減額	増減率		
売上高	15,918	+918	+6.1%	+1,575	+11.0%	15,000	14,343
営業利益	1,327	+407	+44.3%	+444	+50.4%	920	883
同率	8.3%	+2.2p	/	+2.1p	/	6.1%	6.2%
経常利益	1,343	+413	+44.5%	+443	+49.2%	930	900
同率	8.4%	+2.2p	/	+2.1p	/	6.2%	6.3%
当期純利益	913	+273	+42.7%	+296	+47.9%	640	617
同率	5.7%	+1.4p	/	+1.4p	/	4.3%	4.3%
受注高	16,703	/		+1,662	+11.0%	/	
受注残高	13,232			+1,801	+15.8%		
							11,430

➤ 売上、利益ともに、期初計画を上回り増収増益

連結業績 主な増減要因

期初計画比

【売上高】

ITソリューション事業	+209百万円
プロダクトソリューション事業	+709百万円

【営業利益】

売上増に伴う増加	+160百万円
生産性の向上(粗利率向上)	+110百万円
研究開発費下期ずれ込み、 採用計画進捗遅れ等	+140百万円

前年同期比

【売上高】

ITソリューション事業	+652百万円
プロダクトソリューション事業	+922百万円

【営業利益】

売上増に伴う増加	+260百万円
生産性の改善(粗利率改善)	+190百万円
販管費増による減少	△8百万円

ITソリューション事業 概況(1)

(単位:百万円)

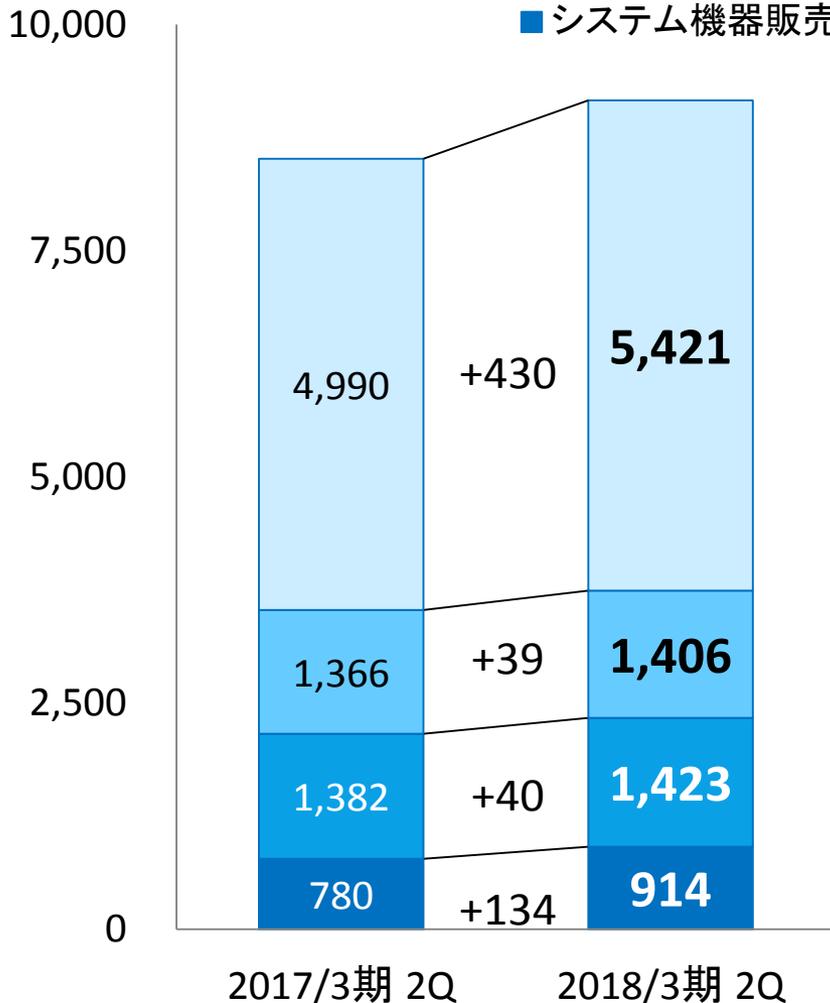
	2018/3期 2Q累計 実績	期初計画比		前年同期比		期初計画	2017/3期 2Q累計 実績
		増減額	増減率	増減額	増減率		
		売上高	9,209	+209	+2.3%		
ソリューション事業	5,421			+430	+8.6%		4,990
システム運用事業	1,406			+39	+2.9%		1,366
データセンター事業	1,423			+40	+2.9%		1,382
システム機器販売	914			+134	+17.2%		780
その他	43			+7	+21.1%		35
営業利益	444	+84	+23.6%	+133	+42.9%	360	311
同率	4.8%	+0.8p		+1.2p		4.0%	3.6%
受注高	9,808			+827	+9.2%		8,980
受注残高	10,129			+1,344	+15.3%		8,784

ITソリューション事業 概況(2)

【売上高】

(単位:百万円)

- ソリューション事業
- システム運用事業
- データセンター事業
- システム機器販売



主な増減要因

【ソリューション事業】

- 製造
PKGソリューション、基幹システム等を中心に増加
- 金融・保険
損保系の制度改定案件等が増加
- サービス
WEB・ECサービスが増加
- 官庁・団体
一部案件の検収時期変更により減少

【システム運用事業】

既存顧客の対応領域拡大により増加

【データセンター事業】

業務アウトソーシングサービスやAMOサービスなどが増加

【システム機器販売】

卸売・小売業を中心とした既存顧客向けが増加

プロダクトソリューション事業 概況(1)

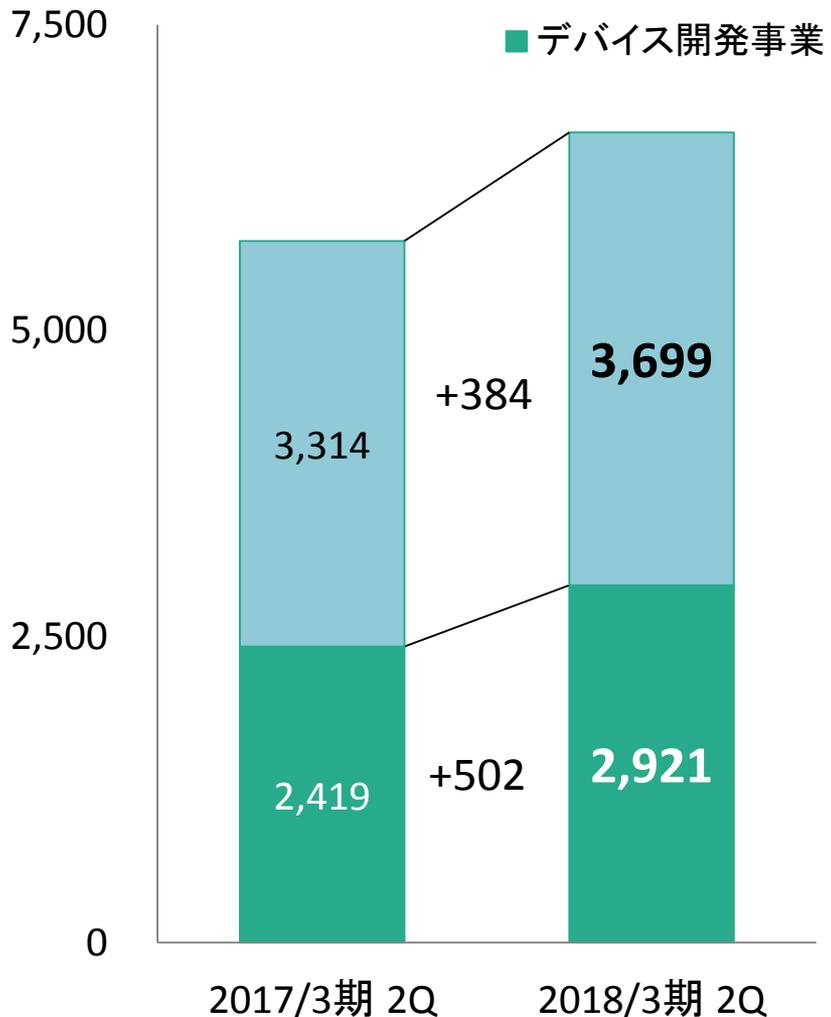
(単位:百万円)

	2018/3期 2Q累計 実績	期初計画比		前年同期比		期初計画	2017/3期 2Q累計 実績
		増減額	増減率	増減額	増減率		
売上高	6,709	+709	+11.8%	+922	+15.9%	6,000	5,786
組込みソフトウェア開発事業	3,699	/		+384	+11.6%	/	
デバイス開発事業	2,921			+502	+20.8%		
その他	88			+35	+68.0%		
営業利益	883	+323	+57.7%	+311	+54.4%	560	571
同率	13.2%	+3.9p		+3.3p		9.3%	9.9%
受注高	6,895	/		+834	+13.8%	/	
受注残高	3,102			+456	+17.3%		

プロダクトソリューション事業 概況(2)

【売上高】

(単位:百万円)



主な増減要因

【組込みソフトウェア開発事業】

- オートモーティブ
IVI系の既存顧客深耕・新規顧客開拓。
走行安全や車載制御の領域にも参入
- モバイル
通信キャリア向け開発案件が増加
- 設備機器
エネルギー、医療関連を中心に増加。
デバイス開発との連携で対応領域拡大。
- 通信インフラ
前期大型案件の終了により減少。

【デバイス開発事業】

画像処理、MCU等を中心に拡大。

※IVI(In-Vehicle Infotainment): 主に車載システムにおいて、情報(インフォメーション)と娯楽(エンターテイメント)を提供するシステムの総称

※MCU(Micro Controller Unit): マイクロプロセッサベースの制御装置。ワンチップで1つのシステムとして機能するSoCの一種

連結貸借対照表

Systemware

(単位:百万円)

	2018年3月期 第2四半期末	2017年3月期 期末	前期末比	主な増減要因
流動資産	15,207	14,109	+1,097	現金及び預金+874 受取手形及び売掛金△223 仕掛品+338
固定資産	8,369	8,563	△194	
資産の部	23,577	22,673	+903	
流動負債	5,227	4,836	+391	未払消費税等+88 流動負債その他+341 役員退職慰労金△308
固定負債	2,036	2,288	△252	
負債の部	7,264	7,125	+138	
純資産の部	16,312	15,548	+764	利益剰余金+764
流動比率	290.9%	291.7%	△0.8p	
固定比率	51.3%	55.1%	△3.8p	
自己資本比率	69.2%	68.6%	+0.6p	

連結キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

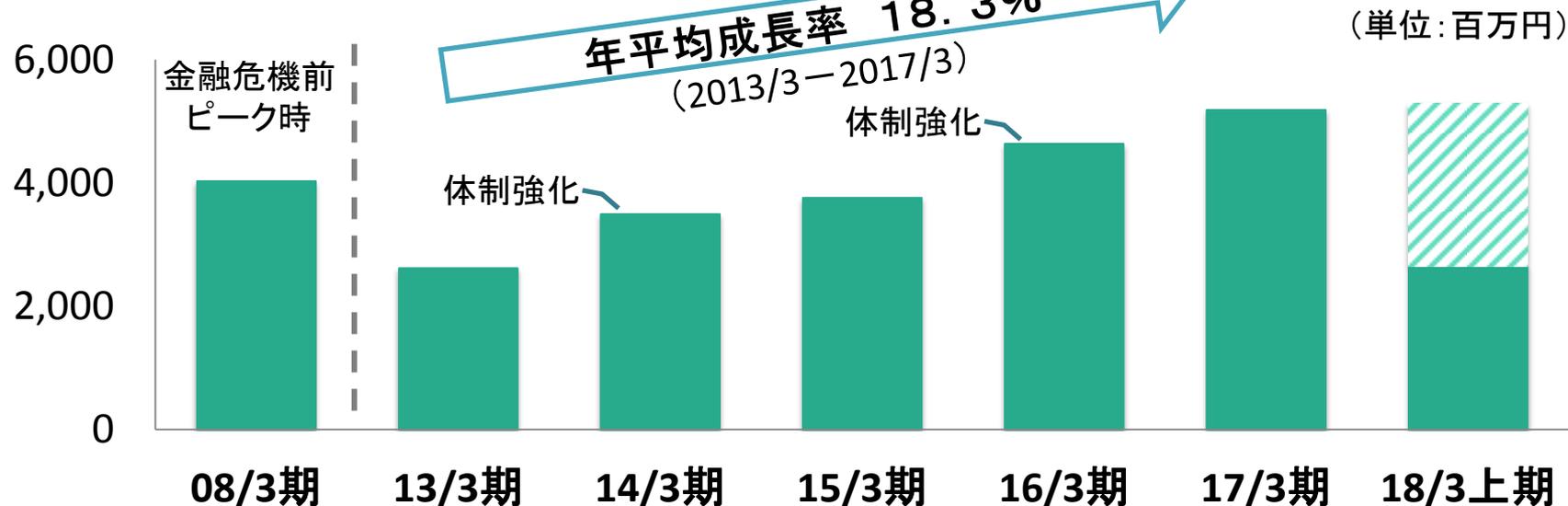
	2018年3月期 2Q累計期間	2017年3月期 2Q累計期間	前年同期 比増減額	主な要因
現金及び現金同等物の期首残高	4,852	3,557	+1,295	
営業活動による キャッシュ・フロー	1,110	719	+391	税前三半期純利益+1343 減価償却費の増減△254 役員退職慰労引当増減△308
投資活動による キャッシュ・フロー	△85	△233	+148	有形固定資産の取得による支出△62
財務活動による キャッシュ・フロー	△149	△222	+73	配当金の支払△149
現金及び現金同等物の増減額	874	244	+629	
現金及び現金同等物の四半期期末残高	5,726	3,802	+1,924	

Humanware By Systemware

2. 事業トピックス

デバイス開発事業

売上高推移



日本の半導体市場動向

- 高性能スマートフォンやタブレット端末の販売増
- 電動化が進む自動車への搭載増
- IoT普及によるセンサーなど産業機器への搭載増

➡ 半導体需要の伸びを牽引

年平均成長率 +4.5%
(2016~2019年)
市場規模 約4兆67億円
(2019年)

(出典)世界半導体市場統計

デバイス開発事業 事業内容

半導体の製造工程



計画

仕様検討

お客様要望を具現化するための提案。機能や性能等、仕様を検討。

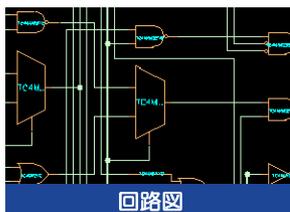
設計

論理設計



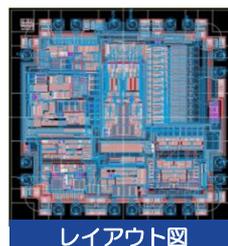
言語記述で論理設計

論理合成



専用ツールでデジタル回路に生成

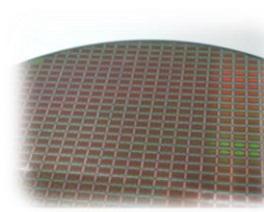
物理設計 (レイアウト)



回路の配置と配線のレイアウトを設計

試作・評価

試作



試作品を作成

評価



専用装置 (テスター) を用いて評価

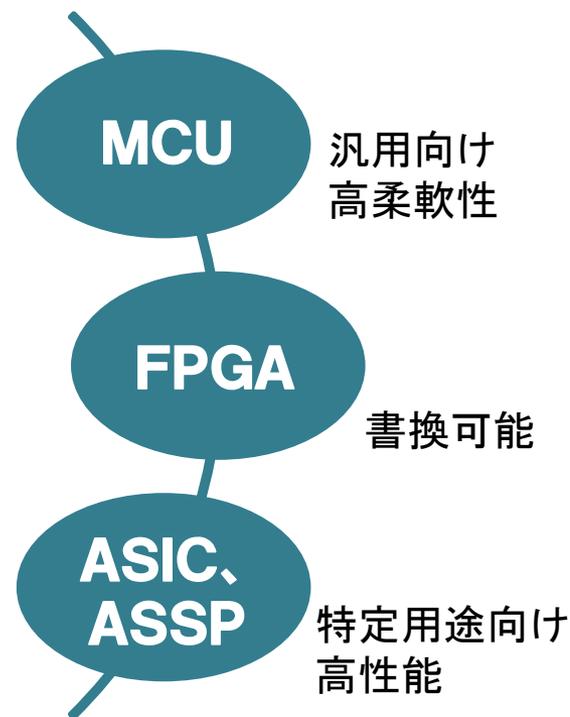
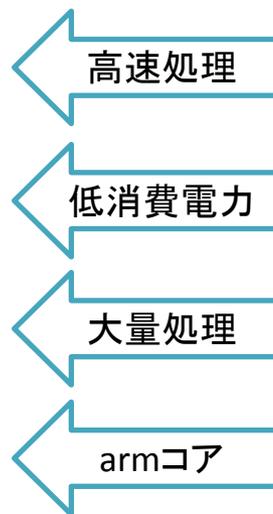
デバイス開発事業 特長

- ・長年にわたる半導体設計のノウハウと豊富な実績
- ・画像処理や通信制御などの各分野で低消費電力設計、先端プロセスに対応

製品を支えるLSI



(最終製品イメージ)



MCU: Micro Controller Unit

FPGA: Field Programmable Gate Array

ASSP: Application Specific Standard Product

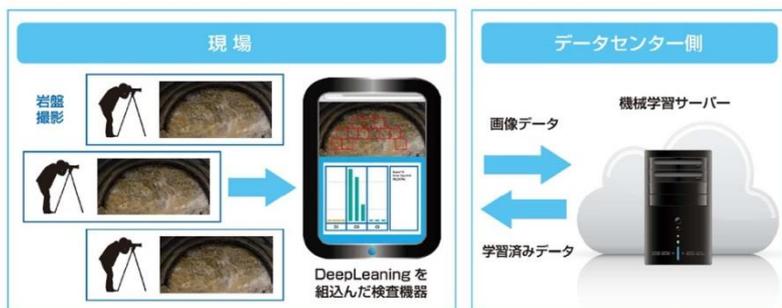
ASIC: Application Specific Integrated Circuit

新しい取り組み

得意領域による新ソリューション・サービスの創出

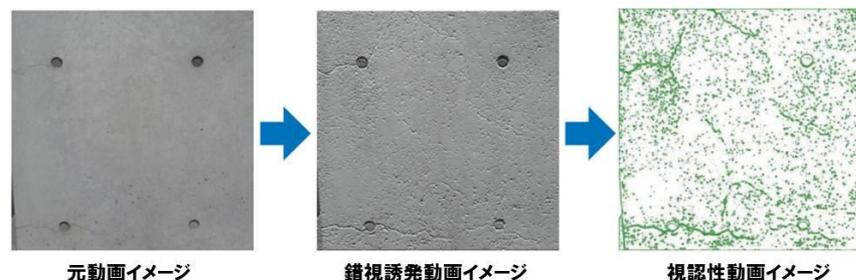
Deep Learning

機械学習の一種であるディープラーニングによる画像解析サービス



Crack Mapping System

錯視を誘発する画像処理によるひび割れ点検支援システム



Edgeデバイスソリューション

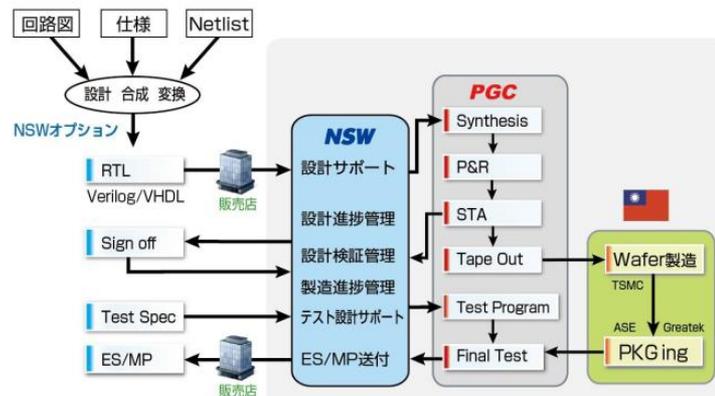


画像処理やarm mbedのノウハウを活用し、リアルタイム処理を実現するエッジコンピューティング

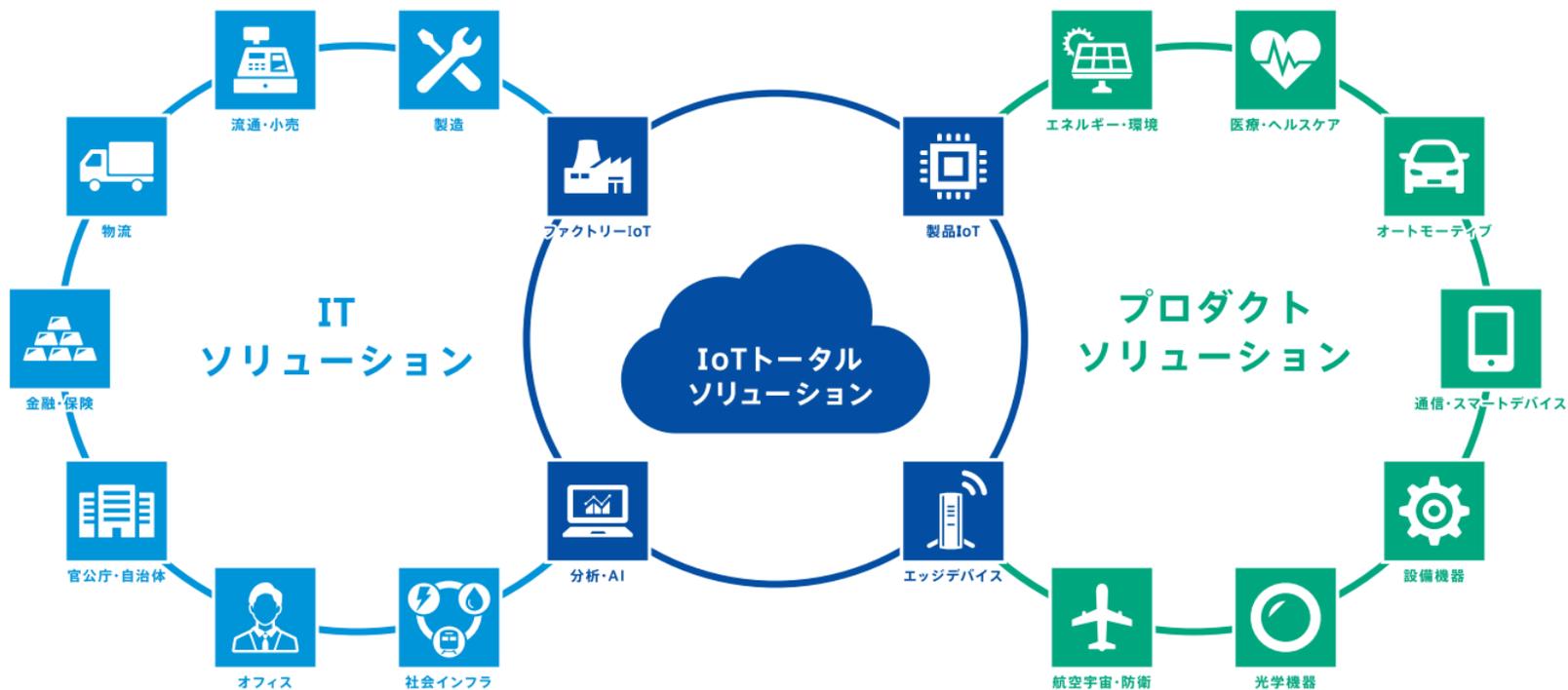


Lite ASIC

生産終了LSI製品のフルカスタム再生産サービス

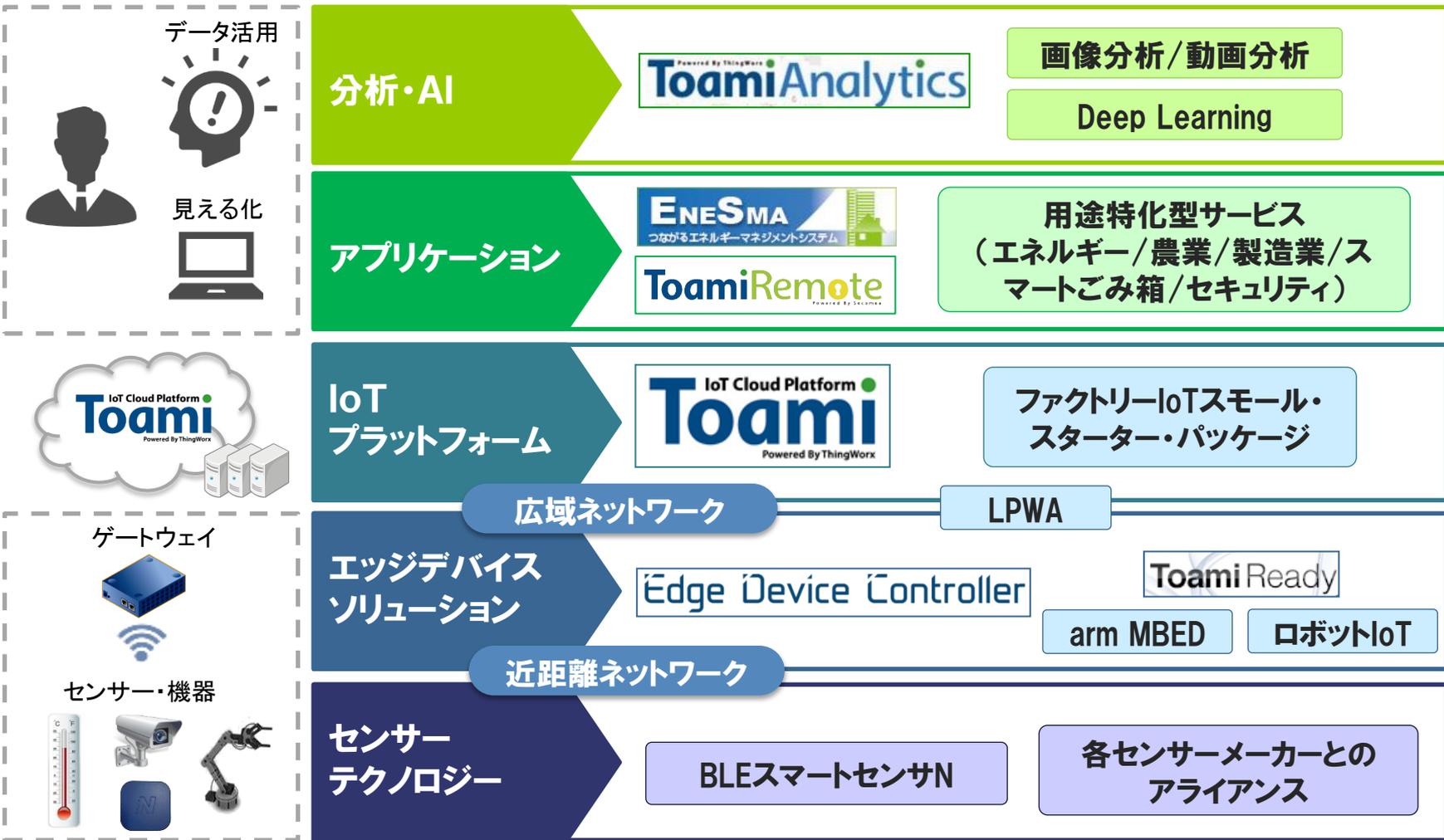


ITソリューションとプロダクトソリューションの ノウハウ融合により、IoT事業を第3の柱へ



当社のIoTサービス

コーディネート力と、実現のためのツール群の拡充に注力



ワンストップでサポート

IoT事業 当社の強み

デバイスからクラウドまでのトータルサポート

IT(システムインテグレーション) トータルソリューション

コンサル～開発・運用まで、
最大価値を生み出す対応力



エンベデッド トータルソリューション

組み込みアプリケーション～LSIまで
対応できる豊富な設計力、開発力



Synergy

パートナーシップ



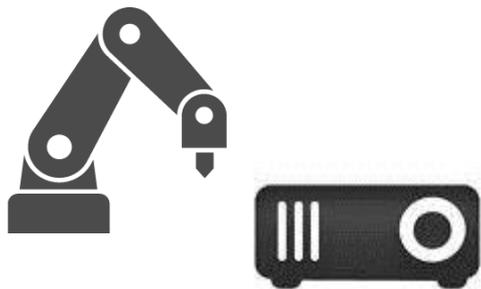
数々のパートナー様との共創



数々のお客様事例とノウハウ

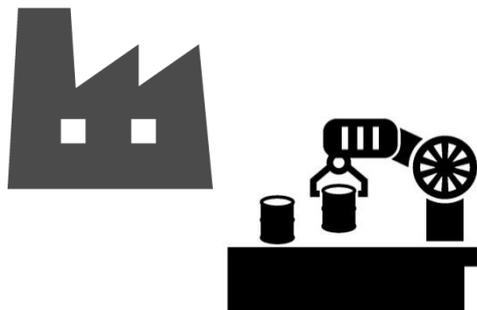
IoT事業 お客様導入状況

製品のIoT化



6

Factory IoT



2

その他



2

ご導入企業様

NEC
NECネットエスアイ

docomo
NTT

EXEO
株式会社 協和エクシオ

TABUCHI ELECTRIC

CIC
長州産業

JRC 日本無線

NORITZ

Panasonic

HORIBA

Maintech

YANMAR

リオン株式会社

RENESAS

watanabe

※ロゴ掲載許可を頂いている企業様一覧です。(社名50音順)

Factory IoT 導入支援事例

自動車部品メーカー様の事例

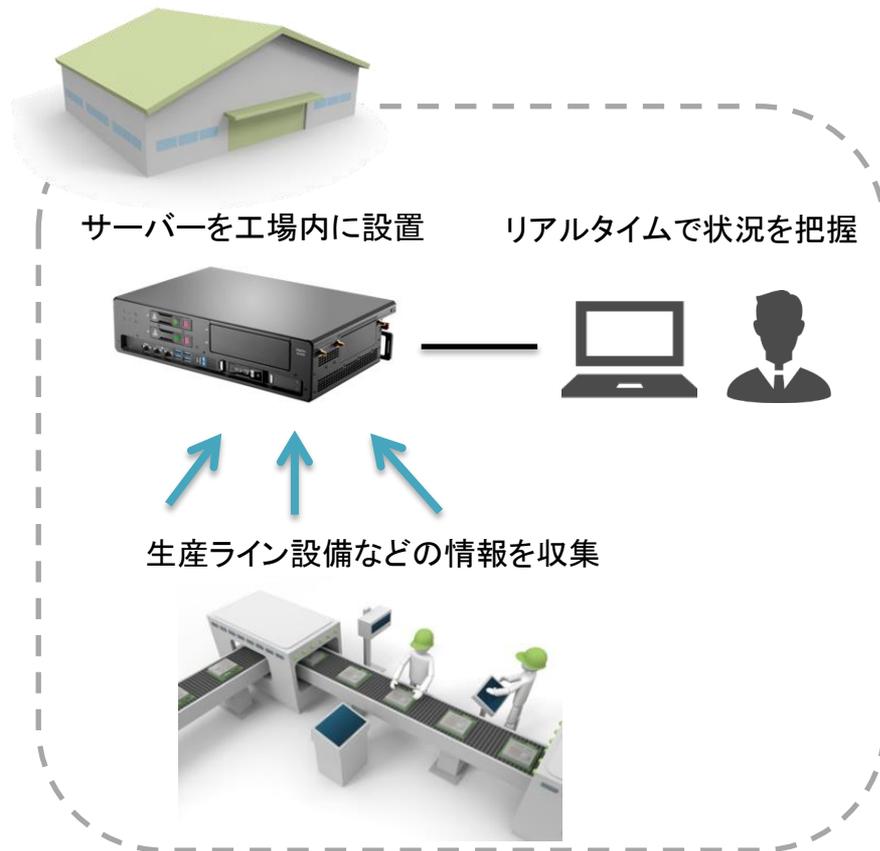
生産ラインの効率化により、
生産効率や品質の向上を実現したい



データ収集をシステム化し、リアルタイムの見える化と分析環境を提供

【導入効果】

- ・ 設備の異常への迅速な対応を可能にし、不良率の低減を実現。
- ・ 蓄積されたデータを解析し、設備の故障や異常予測に活用を目指す。



Factory IoT Solution

Hewlett Packard
Enterprise

HPE Edgeline IoT Systems



システム構築支援

NSW

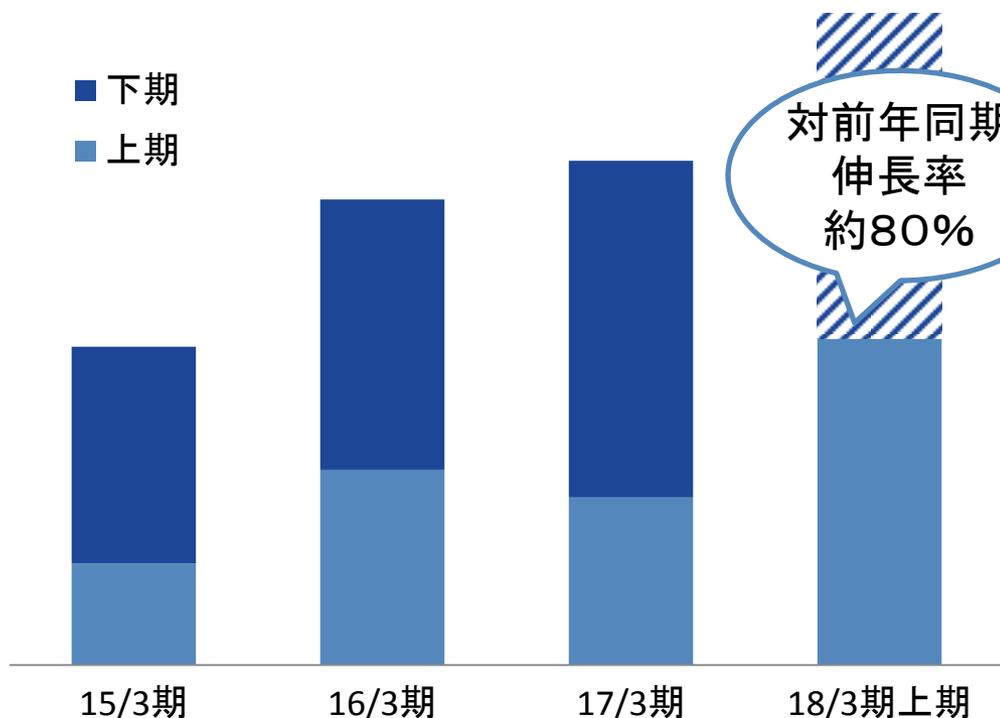


ptc thingworx®

IoT事業 進捗状況

- 新規顧客開拓、既存顧客深耕による受注拡大
- 実証・検証から本番フェーズ移行によるストック売上の増加

IoT関連売上高推移



IoT Cloud Platform
Toami
Powered By ThingWorx

- 本番フェーズ移行・拡大が徐々に進み、ゲートウェイ出荷数や契約ライセンス数が増加
- 関連サービス (FactoryIoT、分析など) の引合いも増加

Humanware By Systemware

3. 通期業績見通し

連結業績予想

(単位:百万円)

	2018/3期 計画	前年同期比		2017/3期 実績
		増減額	増減率	
売上高	32,000	+1,332	+4.3%	30,667
営業利益	2,400	+10	+0.4%	2,390
同率	7.5%	△0.3p		7.8%
経常利益	2,430	△21	△0.9%	2,451
同率	7.6%	△0.4p		8.0%
当期純利益	1,650	△51	△3.0%	1,702
同率	5.2%	△0.4p		5.6%

- 当初計画の確実な達成
- コア事業の領域拡大、IoT事業の強化・拡充に向け戦略的事業投資を継続

セグメント別業績予想

(単位:百万円)

		2018/3期 計画	前年同期比		2017/3期 実績
			増減額	増減率	
IT ソリューション	売上高	19,500	+969	+5.2%	18,530
	営業利益	1,100	+33	+3.1%	1,067
	同率	5.6%	Δ0.2p		5.8%
プロダクト ソリューション	売上高	12,500	+363	+3.0%	12,136
	営業利益	1,300	Δ22	Δ1.7%	1,322
	同率	10.4%	Δ0.5p		10.9%

- ITソリューション パッケージソリューションを中心とした規模拡大と新サービスの創出による収益力強化
- プロダクトソリューション 既存事業の維持・拡大。コア技術を基盤とした新サービス展開

成長戦略と財務健全性を両立した財務戦略の実現

資本効率

- 健全な自己資本の水準を維持
- 株主資本利益率(ROE)8%以上の持続的成長

株主還元

- 従来方針である安定配当(年間20円以上)の継続的实施

成長投資

- 注力事業であるIoTやオートモーティブ分野、また、当社の強みを発揮できる分野に対する積極的投資

NSW

Humanware By Systemware